

都市の脱炭素化と社会課題解決に貢献

森ビル初の「系統用蓄電所」埼玉県深谷市で運転開始
～再生可能エネルギーの有効活用と電力系統全体の安定化に寄与～

森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長 向後康弘)は、2026 年 9 月 28 日より、埼玉県深谷市において、当社初となる「系統用蓄電所(以下、本蓄電所)」の運転を開始いたしました。本蓄電所は定格出力約 2,000kW、蓄電容量約 8,000kWh(約 750 世帯の 1 日分の使用電力量に相当※¹)で、社会課題となっている電力需給のバランス調整と、電力系統全体の安定化に貢献いたします。

※1 環境省「令和 5 年度家庭部門の CO2 排出実態統計調査資料編(確報値)」世帯あたり消費電力量全国平均値 3,911kWh(年間)から、1 日当たりの世帯消費電力量を 10.7kWh として試算。

電力会社の送配電網に接続し、電力の需給バランスを調整

脱炭素社会の実現に向けて再生可能エネルギーの導入が進むなか、天候に左右される太陽光や風力発電の発電量のブレ(出力変動)が課題となっており、需要と供給のバランスを保つ「調整力」の確保が急務となっています。

課題解決には、電力会社の送配電網(電力系統)に直接接続し、電力の需給バランスの調整を担う系統用蓄電所が有効です。電力が余る時間帯に蓄電し、不足する時間帯に放電することで、再生可能エネルギーの有効活用に加えて、送電線の混雑緩和など電力系統全体の安定化に貢献します。



系統用蓄電所(埼玉県深谷市)

将来的には地方と都心を結ぶ広域バーチャル・パワープラントを構築

森ビルはこれまで、営農型太陽光発電所などを通じて再生可能エネルギーを「作る」取り組みを進めてきましたが、本蓄電所の運転開始により、電力を「貯め、整える」機能がさらに強化されることになります。将来的には当社が所有する複数の再エネ発電所や系統用蓄電所と、東京都心にある当社物件をネットワークで結び、再生可能エネルギーで都心のビルの電力を無駄なく賄っていく仕組み(広域 VPP※²)の構築を目指しています。

※2 VPP(バーチャル・パワープラント):電力系統に直接接続されている発電・蓄電設備や、需要家側の発電・デマンドレスポンス設備/システムを広域的かつ一体的に制御する仕組み。特に再生可能エネルギーなど発電量のボラティリティが大きい電力を有効に利用するための手段として期待されている。

【森ビル深谷市永田系統用蓄電所の概要】

所在地	埼玉県深谷市永田
合計事業地面積	約 600m ²
設備規模	蓄電池容量約 8,000kWh/系統連系容量約 2,000kW
運転開始日	2026 年 9 月 28 日

当社は、2022 年 5 月に脱炭素化に向けた温室効果ガス排出量削減目標を設定以降、2026 年 3 月末時点で国内需要の 8 割以上の再エネ電力への切り替えを完了するなど、目標達成に向けた取り組みを推進しています。引き続き「都市を創り、都市を育む」の理念のもと、都市の脱炭素化を追求し、未来へとつながる持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

【本件に関するお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室

TEL : 03-6406-6606 FAX : 03-6406-9306 E-mail : koho@mori.co.jp

【参考】森ビルグループの再エネ電力調達の取り組み

森ビルグループは、自ら使用する電力とテナントに供給する電力について再エネ化を進めています。再エネ電力・環境価値の取得について、他社や市場から調達するだけでなく、一部森ビルのアセットとして開発・所有することで、長期安定的な需給の形を目指しています。

2023 年度末からは、茨城県筑西市を皮切りに「営農型太陽光発電所」3 サイト計 5.0ha の開発・運営を行っています。営農型太陽光発電所とは、荒廃リスクのあった農地に、十分に間隔を開けながら太陽光パネルを設置し、「再エネ発電」と「農業」の両立を図る発電所です。発電した電力はオフサイト PPA の形で当社が管理・運営する物件に供給され、太陽光パネルの下では営農が継続されています。追加性のある再エネ電力の拡大や農業の維持継続という社会的要請への寄与に加えて、近隣への災害時一部電力供給や農作物の営農体験など、地域防災への貢献や地域と都心をつなぐ施策なども実施しています。

また、発電した電力を効率的に供給するべく、新たな再エネ発電所においては蓄電池を併設させていく他、系統用蓄電所の増設も予定しております。今後は 24/7 Carbon Free Energy^{※3} 等への対応も見据え、再エネ電力のアワリーマッチングを更に推進するべく、本取り組みを加速していきます。

引き続き、地域や社会課題の解決も図りながら、各地で太陽光発電所や風力発電所などを開発し、当社グループの脱炭素化と持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

※3 24/7 Carbon Free Energy : 24 時間 365 日、リアルタイムでカーボンフリー電力を使用するという考え方



筑西市桑山営農型太陽光発電所



太陽光パネルの下での営農



農作物の営農体験



営農型太陽光発電所で収穫した野菜をヒルズマルシェで販売